

2019ジュニアニュースNo.2

第2号 (一社)全日本ジュニア体操クラブ連盟

発行日:平成31年3月8日(金)

発行所:東京都中央区日本橋1-16-6 久富ビル4階

Tel: 03(3281)7788

「2019ジュニアニュースNo.2」をお届けいたします。

指導者の皆様におかれましてはご確認よろしくお願い申し上げます。

今回の連絡事項は下記のとおりです。

1. (公財)日本体操協会「女子体操競技情報28号」について

1. (公財)日本体操協会「女子体操競技情報28号」について

(公財)日本体操協会ホームページにおいて「女子体操競技情報28号」が2月25日付で、協会HPに公開されましたので、連盟からもジュニアニュースにて皆さんに情報をお送り致します。
【以下体操協会ホームページより】

((公財)日本体操協会ホームページ:<https://www.jpn-gym.or.jp/artistic/rules/> 内

<https://www.jpn-gym.or.jp/artistic/wp-content/uploads/sites/2/2019/02/073afdc46035ce60f4d792e6ce7d1624.pdf>

詳細は上記 (公財) 日本体操協会HPをご確認ください。

※上記に関する追加情報が掲載された場合は、ジュニアニュースでお知らせをするのではなく、連盟ホームページに掲載させて頂く形を取らせて頂きます。ご了承ください。

2019年2月25日

女子体操競技情報 28号

(公財)日本体操協会
東京オリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部
審判委員会体操競技女子審判本部

日本体操協会では、東京オリンピック強化委員会女子体操競技強化本部による2019年強化指針と審判委員会体操競技女子審判本部による2019年採点指針、およびFIGからの採点規則の変更、修正等の情報をここに通達し、この通達をもって適用といたします。

2019年 強化指針

東京オリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部長
田中 光

強化方針

Dスコアを上げながらも正確な技の実施でEスコアを上げることを第一として強化を図る

- ①2019年世界体操にて2020東京五輪の団体出場権を獲得するための強化
- ②2019年世界体操にて団体総合3位以内、個人総合、種目別で多くのメダルを獲得する強化
- ③基本に忠実な演技の実施と、Dスコア・Eスコアの向上につながる強化

【団体総合・個人総合・種目別強化】

目標

- ★団体総合得点目標を167.000とする。
- ★各種目のベスト3目標を跳馬43.500、段違い平行棒42.000、平均台40.500、ゆか41.000とする。
- ★個人総合で55.000以上獲得できる選手を多く輩出する。
- ★2種目以上でチームに貢献できるスペシャリストを輩出する。

跳馬：Dスコア5.40以上の技は必須であり、積極的にD5.60、D5.80の技に取り組む。

段違い平行棒：手放し技の難度を上げ、加点を効率よく得られる構成を練り、

Dスコア5.80以上、Eスコア8.50以上を目標とする。

平均台：技の正確性と全習での安定感を最重視した練習を継続し、

Dスコア5.80以上、Eスコア8.50以上を目標とする。

ゆか：ひねり、ジャンプの高さ不足、柔軟度、ターンの正確性、タンブリングの高さ、着地姿勢、芸術性を改善する。

Dスコア5.70以上、Eスコア8.50以上を目標とする。

世界体操ドーハの団体戦を振り返ると、ミスはあったものの3強のアメリカ、ロシア、中国は強く、オリンピック出場権を獲得しました。日本は惜しくも6位に終わりました。Dスコアを上げ、正確な演技ができないと世界では勝負できないことが明確となりました。

個人総合では村上茉愛選手が史上初となる快挙で2位、種目別ゆかでは3位に輝きました。村上茉愛選手、寺本明日香選手に続く、個人総合で55.000～56.000以上を取れる選手が必要となります。さらに種目別でのメダル獲得を考えた場合、それぞれの種目の強化戦略を練り上げる必要があります。

世界体操2019（シュツットガルト）は、東京五輪2020の団体出場枠を争う大変重要な大会となります。世界体操2018（ドーハ）での決勝進出基準が161.071とかなり高かったことを考えると、予選通過基準を165.000に定めておく必要があります。団体でのメダル獲得基準は、強国アメリカは除いて、2位のロシア、3位の中国のDスコアや能力、伸び代を計算すると167.000近くになる可能性が高いと思いました。仮に167.000として各種目の目標点数を算出すると、跳馬43.500、段違い平行棒42.000、平均台40.500、ゆか41.000となります。

跳馬（目標スコア43.500：平均14.500）の場合、Dスコア5.40以上の技は必須であり、Eスコアは9.10以上の実施が望まれます。果敢にD5.80のチェソビチナやD5.60のツカハラ2回ひねりにも取り組んでもらいたいです。

段違い平行棒（目標スコア42.000：平均14.000）の場合、Dスコアを5.80とすると、Eスコア

は 8.20 以上の実施が望れます。D スコアを 5.50 とすると、E スコアは 8.50 となります。手放し技の難度を上げ、組み合わせ加点を効率よく得られる構成を練る必要があります。またシュタルダー系の技での倒立姿勢の減点は非常に大きいため、熟練度を高めることが大事です。

平均台（目標スコア 40.500 : 平均 13.500）の場合、D スコアを 5.80 とすると、E スコアは 7.70 以上の実施が望れます。採点傾向として、D スコア認定が厳しく、E スコアもさらに厳しくなることが予測されるため、とにかく正確性と全習での安定感を最重視した練習が必須です。

ゆか（目標スコア 41.000 : 平均約 13.700）の場合、D スコアを 5.70 とすると、E スコアは 8.00 以上の実施が望れます。顕著にひねり不足、ジャンプの高さ不足や柔軟度、ターンの正確性、タンブリングの高さ、着地姿勢の減点が大きかったため、改善が求められます。

メダル獲得のためには、減点されにくい技の選択、またオリジナル性豊かな構成面の工夫と安定感が望れます。日本の戦略としては、D スコアを上げながらも正確な技の実施で E スコアを上げることを第一として強化を図っていきたいと思います。

2019年 採点指針

審判委員会体操競技女子審判本部

全体として

東京オリンピック強化本部より、東京オリンピックの予選となる2019年の世界選手権に向けては、Dスコアを上げながらも正確な技の実施でEスコアを上げることを第一として強化を図ることが打ち出されました。この目標を達成させるために2019年の国内競技会では以下の3項目を採点上の最重要項目とし採点をしていきます。

- ① 欠点のない美しい姿勢での正確な技の実施
- ② 確実な技の実施による完成度の高い演技
- ③ 高いDスコアの演技

各種目について

跳馬

- Dスコアの高い跳躍技の実施
 - ・代表選考を兼ねる大会においてはDスコア5.40以上の跳躍を高く評価する
- 姿勢欠点のない完成度の高い跳躍
- 高さと距離を伴うダイナミックな跳躍
- 着地の体勢が高く、安定した着地

【採点上の留意点】

- ダイナミックさに欠ける跳躍については、跳躍の大きさだけではなく、技の難易度から受けれる迫力や雄大性などを加味し、第10章「跳馬「種目特有な実施減点」の「ダイナミックさに欠ける(0.10/0.30)」の減点項目に則り、明確に差をつける。
- 完成度の低い跳躍については、それぞれの局面での欠点を、第8章の一般欠点と減点表の減点項目や第10章「跳馬「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

段違い平行棒

- 腕の曲がり、膝やつま先の緩みのない美しく伸びた体線での実施
- 空中局面を伴う技の大きさとひねりを伴う技の正確な実施
- Dスコアの高い演技構成
 - ・代表選考を兼ねる大会においては、組み合わせ点を複数獲得できるDスコア5.40以上の演技構成を高く評価する

【採点上の留意点】

- け上がり、後ろ振り上げなどの基本技の姿勢においても注視し、各技の欠点については個々に減点する。
- 上記指針の内容に沿わない未完成な演技に対しては、第8章の一般欠点と減点表の減点項目や第11章「段違い平行棒「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、明確に差をつける。

平均台

- 姿勢欠点がなく正確なダンス系の技の実施
- 立ち姿勢も含め、常に美しい姿勢での演技
- 技の前の「調整」や「停止」のない流れのある演技
- D スコアの高い演技構成
 - ・代表選考を兼ねる大会においては、E 難度以上の技を複数組み入れ、さらに複数の組み合わせ点を獲得できる D スコア 5.50 以上の演技構成を高く評価する

【採点上の留意点】

- ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施、正確性のない実施には「身体の姿勢の減点 (0.10/0.30/0.50)」、「正確さ (0.10)」の減点を厳密に減点する。
- 身体の姿勢が悪い、つま先が伸びない、足が緩む、つま先立ちでの運動や動きに欠ける演技に対しては、「演技全体を通して身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り、減点する。
- 上記指針の内容に沿わない演技に対しては、第 8 章の一般欠点と減点表の減点項目や第 12 章平均台「芸術性と構成の減点」「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、明確に差をつける。

ゆか

- 姿勢欠点がなく正確なダンス系の技の実施
- 立ち姿勢も含め、常に美しい姿勢での演技
- 演技面を大きく使い、流れのあるダイナミックな演技
- 観衆を魅了することができる芸術作品として完成度の高い演技
- D スコアの高い演技構成
 - ・代表選考を兼ねる大会においては、F 難度以上の技を組み入れ、さらに 1 つの組み合わせで 0.20 の組み合わせ点が獲得できる D スコア 5.40 以上の演技構成を高く評価する

【採点上の留意点】

- ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施、正確性のない実施には「身体の姿勢の減点 (0.10/0.30/0.50)」、「正確さ (0.10)」の減点を厳密に減点する。
- つま先が伸びない、足が緩む、足が内向き、べた足の演技に対しては、「演技全体を通して身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り、減点する。
- 上記指針の内容に沿わない演技に対しては、第 8 章の一般欠点と減点表の減点項目や第 13 章ゆか「芸術性と構成の減点」「音楽性」「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、明確に差をつける。

【跳躍や演技を試みなかった場合の国内対応】

国内競技会においては、従来認められていたように、緑ライトの点灯または D1 審判員からの演技開始の合図の後、選手が D 審判員に挨拶をし、跳躍板や器具に触れてから再び挨拶することで 0.00 点として扱うこととする。(すべての種目)

【変更規則の訂正】

変更規則 I ・ II

<A (0.10) の難度を認められる要素>

変更

以下の要素は 1 技として数えられるが、構成要求、組み合わせ点、シリーズボーナスには使用できない。また、平均台において横向きでのジャンプを実施しても 1 つ高い難度は与えられない。

【採点規則 2017 年版 補足説明】

* 2018 ドーハ世界選手権・Newsletter#43・ヘルプデスク Edition7 (2019.2) 情報

<総則>

- 不適切なマグネシウムの使用、または器械を損傷させる
 - ・過度なマグネシウムの使用は減点となる
例：フロアにマグネシウムを撒き散らす、マット上にマグネシウムの塊を撒き散らす、マット上にマグネシウムでラインを引くなど
 - ・平均台の表面上への水の使用はしてはならない。

第 2 章 2.4 ペナルティー

不適切なマグネシウムの使用、または器械を損傷させる 最終スコアから -0.50

➤ 顔へのペイントは認められない

- ・劇場のキャラクターなどを描写してはならない

➤ 筋力をサポートするような着圧サポーター*は競技では使用できない。 どんな色でも認められない。



参照 : FIG WAG Newsletter#43

これらのサポーターは、静脈の壁や脚の組織を圧迫することによってリンパに影響させるためである。これらは、ウォーミングアップ及び直前の器具のアップ時のみ使うことが可能である。

第 2 章 2.4 ペナルティー

不適切な服装 レオタード、装飾類、包帯の色 最終スコアから -0.30

足首、肘、膝のための伸縮包帯（サポーター）は、関節をサポートするのみの役割であるため認められる。



参照 : FIG WAG Newsletter#43

- ゆかフロアへの入り方
 - ・最初のポーズを取るまでに時間がかかってしまった場合（演技ではない余分な動きを長く続けてからポーズに入った場合）、演技時間の計時を開始する。
 - * 演技開始前、ポーズを取るまでに「技」をしてはならない。
 - 例：前転をしてからポーズに入る、ターンをしてからポーズをとる など
- 落下による中断時間
 - ・もし、選手が落下時間の計測を開始することを避けるために故意にマット上から足を離している場合（足から着地せず、胴体でマット上に落下し、その後故意に足から立ち上がらない場合）、例えば、休息をとったり、寝転がったままプロテクターを調整する、コーチからマグネシウムを受け取る、正当な理由なく競技を遅らせるなど、は以下の減点が適用される。

第2章 2.4 ペナルティー
規律のない行動 最終スコアから -0.30

- 音楽
 - 「歌詞が入っていなければ音声を楽器同様に使用してもよい。」
 - ・明らかに歌唱（歌詞）ではない音楽であることが好ましい。

<段違い平行棒>

- 器具の準備

練習時間の後や「演技の間」では、器械器具の準備（段違い平行棒では最大2名上がることができる）はできるが使用することはできない。

 - ・演技の間とは、審判員が前の選手のスコアを算出している時間をさす。
 - ・練習時間の前の器械器具の準備は、選手が次の種目へ移動する時に開始することができる。
- 1/2 ひねりを伴うシャポシニコヴァ系の技

もし正確に実施できなかった場合、高さの減点は適用せず、正確さの減点 -0.10 とその他必要とされる実施減点（脚が開く、膝が曲がるなど）を適用する。
- 「足が器械をかする」「足が器械にあたる」

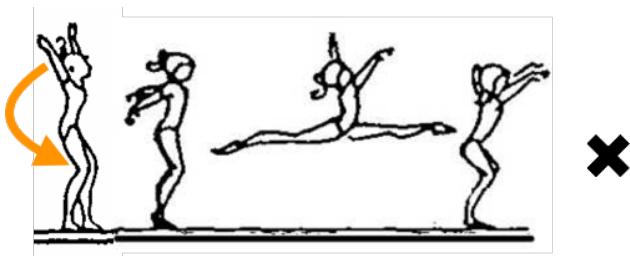
「足が器械をかする」
→現行ルールでは減点項目削除
技のリズムが崩れない（脚が曲がったり、脚が開いたりしない）

「足が器械にあたる」
→もし足が棒に触ったことで脚が曲がったり、脚が開いたり技のリズムが崩れた場合は、「足が器械にあたる」 -0.50 の減点を適用する。

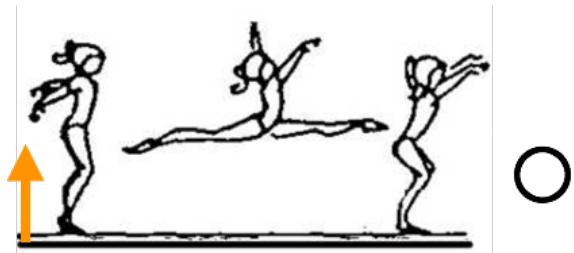
- ・もし、一つの技の実施で複数回足が器械にあたった場合は、減点は1回のみである。
- ・技の実施で足が棒にあたった後、「中間振動」になった場合は、
 「足が器械にあたる」 -0.50 + 「中間振動」 -0.50
 (中間振動で足が器械にあたっても、「足が器械にあたる」減点はない)

<平均台>

- 横向きのジャンプ
 - ・以下の実施は、縦向きのジャンプと判断される
 - 踏み切る前に足がずれる
 - 踏み切る前に頭（顔）が横に向いている
 - 踏み切りの準備動作で（踏み込む際）肩、腰、膝をひねり始める
(踏み切りの準備動作で膝を曲げる時には、身体が正面を向いていること)
- 組み合わせ
 - ・余分な腕の振り
 - 1つ目の技の終了時、肩より上に挙がった手を身体の後ろから振り下ろして次の技へつなげた場合、「余分な腕の振り」と判断され、組み合わせと承認されない。



*腰の位置あたりから振ることは問題ない



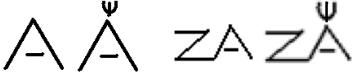
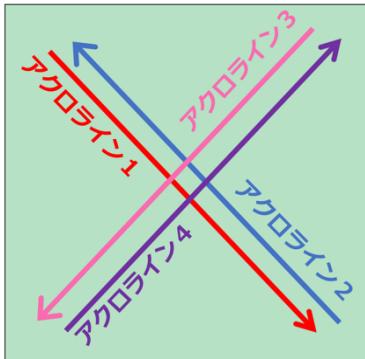
- 4.102 支持脚の前で台を支持した前後開脚立ち
宙返りから片足水平立ち D+A +0.10
この組み合わせが承認されるためには、台の下をつかんではならない。
(台上で支持するのみ)

- しゃがみ立ちターン
 - ・回転中、浮脚が台についた場合は、その時点での技が完了したことになる。
- ターンの連続（組み合わせ）
 - ・支持脚と同じ脚で次のターンを実施する場合は、1つ目のターンの浮脚は台におろしてはならない。1つ目のターンの浮脚が台におりてしまった場合は組み合わせとは認めない。
- 開始技
 - ・終末技を実施する側のマット上から開始技を実施できるのは（マット上に跳躍板を置くことができる）助走のない技のみである。
もし、終末技を実施する側から助走をして開始技を実施した場合は、減点-0.50（器械器具の不正行為）

- 開始技 1.414 台に背を向けて立ち、後転とび、胸倒立から正面支持
 - ・胸倒立て、身体がまっすぐな姿勢を見せることができなかつた場合、
 - 「正確さ」の減点 -0.10
 - 腰が曲がってしまったことに対して「身体の姿勢が悪い」減点 -0.10
- 胴の一部が台に接する平均台に近い動き／技の組み合わせがない
 - 台に接する動きの組み合わせの台に接する部分は、頭／臀部／大腿部に加えて膝での動きを含むことができる。
 - ・少なくとも身体の2パートが台に接しなければならない。
 - ・台をまたいだ座の姿勢は、次の動きへ移行するためだけの姿勢と判断されるため、台をまたいだ座の姿勢では身体の1つのパートが接したとみることはできない。

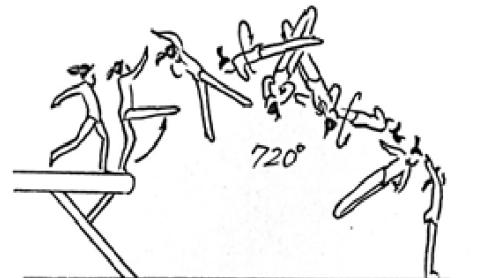
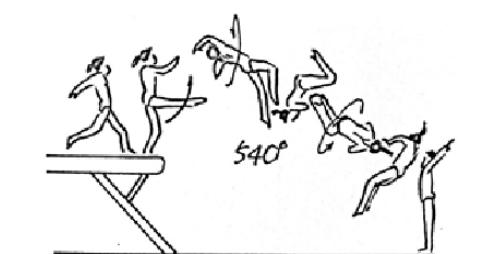
【ヘルプデスク 日本語版】(2018年6月発行) 追加情報と訂正 (*Help Desk edition7 2019 February)

頁	追加修正	章・節	変更前	変更後
9	訂正	7.2.2 技の承認は実施順に行う	"  D	"  C
23	追加	(新たな追加項目)	<p>審判長の減点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切な服装 -レオタード、装飾類、包帯の色 -筋力をサポートするような着圧サポーターは競技では使用できない。  <p>これらのサポーターは、静脈の壁や脚の組織を圧迫することによってリンパに影響させるためである。</p> <p>これらは、ウォーミングアップ及び直前の器具のアップ時のみ使うことが可能である。</p>	<p>足首、肘、膝のための伸縮包帯（サポーター）は、関節をサポートするのみの役割であるため認められる。</p>  
24	追加	(新たな追加項目)	<p>解説：</p> <p>すべての演技に関わる計時（演技開始までの計時、演技時間の計時などが含まれる）は、1秒単位で計られる。</p> <p>超過の例：(平均台の演技時間) 減点は、91秒を過ぎた時点で適用となる。90秒と91秒の間は、まだ超過とはならない。</p>	
39	追加 修正	9.抜粋されたダンス系の技の要求	<p>脚交差した前後開脚とび 1/2 ひねり  または 1 回ひねり  は前後開脚の姿勢が見られなければならない。そうでなければその技はジョンソン  またはジョンソン 1/4 ひねり  となる。</p>	<p>脚交差した前後開脚とび 1/2 ひねり  または 1 回ひねり  は前後開脚の姿勢が見られなければならない。</p> <p>片方の脚が前後開脚に向いており、もう一方の脚が左右開脚に向いていた場合は、脚交差した前後開脚とび（ひねりを伴う、伴わない）と判断される。</p>
45	修正	ウォーミングアップの助走について	<p>テーブルの上に走って上がり、歩くまたはジャンプし、その後宙返り</p> <p>1回の試み</p>	<p>助走からかけ上がる、またはジャンプしてテーブルに上がり、そして宙返り</p> <p>1回の試み</p>
68	追加	(新たな追加項目) 12.4 組み合わせ点 (CV)	<p>D+A : 0.10 (宙返りから片足水平立ち)</p> <p>4.102 支持脚の前で台を支持した前後開脚立ち</p> <p>もし、台の下をつかんだ場合は、組み合わせ点は与えられない。</p> <p>https://youtu.be/vsSt9QGX4Po</p>	

70	修正	技の承認のためのガイドライン		シンボル削除 
74	訂正	13.3 構成要求	2 - 後方宙返りと前方宙返り 3 - ひねり (1回ひねり以上) を伴う宙返り 4 - 2回宙返り	2 - ひねり (1回ひねり以上) を伴う宙返り 3 - 2回宙返り 4 - 後方宙返りと前方宙返り
78	追加	(新たな追加項目)	13.6 種目特有な実施減点 - 技の配分 アクロラインの後に1回より多く立て続けにアクロラインを実施する	-0.10  アクロライン 1 の直後にアクロライン 2 を実施： もし、十分な振り付けがなかった場合、 「アクロラインの後、間に振り付けがなく同じ対角 線上で続けてアクロラインを実施する -0.10」 アクロライン 3 の直後にアクロライン 4 を実施： もし、振り付けが十分であっても「アクロライン の後に1回より多く立て続けにアクロラインを実施 する -0.10」
78	追加	(新たな追加項目)	8.3 一般欠点 バランスを崩す -0.10 / -0.30 もし、選手が片足上でしゃがみ立ちターンをした後にバランスを崩したり、それに続いて床に座ったり、寝転がったりした場合は、バランスを崩す -0.10 / -0.30 の減点を適用する。	 https://youtu.be/TFoGDtuDncE
82	訂正	特定の技	 倒立に到達しない場合 (10度以内)： - 難度は与えられない (D審判団) - 後ろ振り上げの大きさの減点はない (E審判団)	 倒立に到達しない場合 (10度以内)： - 難度は与えられない (D審判団) - 「後ろ振り上げの大きさ」の減点を 適用 (E 審判団) - 必要であれば「身体の姿勢が悪い」 減点を適用 (E 審判団)
欄外	追加		FIG 技術の映像 Youtube “FIG Technical - Women's Artistic Gymnastics” https://www.youtube.com/playlist?list=PLNYqWWimiG-MUpc3cLmGjb17KYr8GfBuO	

2018年ドーハ世界選手権における新技】

*FIG Newsletter#43

種目	選手	解説	映像	シンボル	難度	図
VT	Simone Biles (USA)	# 5.34 (6.40) ロンダート後ろとびひねり ～前方伸身宙返り 2回ひねり https://youtu.be/4V58KKxMXlc	●	↖ ↘	6.40	
BB	Katarzyna Jurkowska-Kowalska (POL)	# 6.507 台の端へ、アウエルバッハ伸身宙返り 2回ひねり下り https://youtu.be/nqpVx3yR2f4	●	↗ ↘ ↓	E	
	Sonja Olafsdottir (ISL)	# 6.407 台の端へ、アウエルバッハかかえ込み宙返り 1½ひねり下り https://youtu.be/2DrkiczkFB0	●	↗ ↘ ↓	D	

種目	選手	解説	映像	シンボル	難度	図
FX	Tienna K. Nguyen (VIE)	# 2.306 浮脚を水平に保つ片足立ちターンから浮脚を水平に保ったしゃがみ立ちで完了する2回ターン https://youtu.be/jiISNHjWSjU			C	
	Tisha Volleman (NED)	# 1.312 *同一技 片脚を前に伸ばして、または曲げて水平より上に振り上げた1回ひねりとび			C	

2018年ユースオリンピック予選 バクー大会における新技】

*FIG Newsletter#43

種目	選手	解説	映像	シンボル		図
FX	Iulia Berar (ROU)	# 2.404 後ろへ上げた浮脚の上方をターンの始めから終わりまで両手で保持した2回ターン https://youtu.be/rQAZF7TVlhs			D	

【新技】

跳馬

追加

5.34

ロンダート後ろとび1/2ひねり～
前方伸身宙返り2回ひねり

6.40 P.



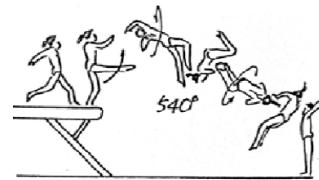
後ろ
E

平均台

下段に追加

6.407

台の端へ、アウエルバッハかえ
込み宙返り1 1/2ひねり下り

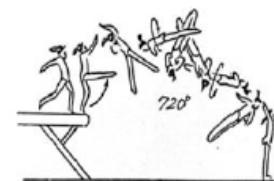


後
E

追加

6.507

台の端へ、アウエルバッハ伸身
宙返り2回ひねり下り



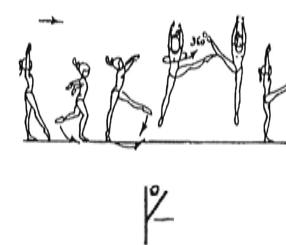
後
E↓

ゆか

解説追加

1.312(*)

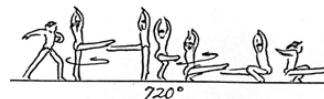
片脚を前に伸ばして、または曲げて
水平より上に振り上げた1回ひねり
とび



追加

2.306

浮脚を水平に保つ片足立ちターン
から浮脚を水平に保ったしゃがみ
立ちで完了する2回ターン



○N=

下段追加

2.404(*)

後ろへ上げた浮脚の膝をターンの始めから
終わりまで水平に保つ片足立ち2回ターン



後ろへ上げた浮脚の上方をターンの始めか
ら終わりまで両手で保持した2回ターン



2017 FIG Vault Table

GROUP I		GROUP II		GROUP III		GROUP IV		GROUP V		
1.00	1.00	2.00	Qualification: One vault must be performed. This vault score counts for Team & AA Total.							
1.01	1.01	2.40	If the gymnast has been registered in the Start list to qualify for Apparatus Finals, a 2nd vault must be performed.							
1.02	1.02	3.00	Score of both vaults averaged = Final score.							
1.03	1.03	3.60	Team & AA Finals: One vault must be performed.							
1.04	1.04	4.00	Apparatus Final: The 2 vaults must be from different groups and may not have identical 2nd flight phases.							
1.05	1.05	4.40								
1.10	1.10	2.40	2.10	2.10	4.00	3.10	3.10	3.30	5.10	5.10
1.11	1.11	2.80	2.11	2.11	4.40	3.11	3.11	3.60	5.11	5.11
1.12	1.12	3.20		2.12	4.80	3.12	3.12	3.90		
				2.13	5.20	3.13	3.13	4.20	5.12	5.12
						3.14	3.14	4.70	5.13	5.13
1.20	1.20	2.00	2.20	2.20	4.20	3.20	3.20	3.50	5.20	5.20
1.21	1.21	2.80	2.21	2.21	4.60				5.21	5.21
1.22	1.22	3.00		2.22	4.60					
1.23	1.23	3.60							5.22	5.22
1.24	1.24	4.00								
1.30	1.30	3.60	2.30	2.30	4.60	3.30	3.30	4.00	5.30	5.30
1.31	1.31	4.00	2.31	2.31	5.00	3.31	3.31	4.20	5.31	5.31
			2.32	2.32	5.40	3.32	3.32	4.60	5.32	5.32
1.40	1.40	2.40	2.33	2.33	5.80	3.33	3.33	5.00	5.33	5.33
						3.34	3.34	5.40	5.34	5.34
						3.35	3.35	5.80		
1.50	1.50	2.60	2.40	2.40	5.20					
1.51	1.51	3.00	2.41	2.41	5.60					
1.52	1.52	3.40								
1.53	1.53	3.80		2.50	6.40					
1.60	1.60	2.80								
1.61	1.61	3.20								
1.62	1.62	3.80								

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F.600	G.700
1.01	✓	✓		✓			
02	✓		✓	✓			
03	✓	✓	✓	✓	✓		
04	✓	✓	✓	✓			
05	✓	✓	✓	✓	✓		
06	✓						
07	✓						
08	✓	✓	✓				
09		✓	✓		✓		
10	✓	✓	✓	✓	✓		
11	✓	✓	✓	✓	✓		
12		✓	✓	✓	✓		
13	✓	✓	✓	✓	✓		
14	✓	✓	✓	✓	✓		
15	✓	✓	✓		✓		
16			✓	✓	✓	✓	
17			✓	✓	✓	✓	
18			✓	✓	✓	✓	
19				✓	✓	✓	

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500
2.01	✓	✓	✓	✓	✓
02		✓	✓	✓	✓
03		✓	✓	✓	✓
04		✓		✓	✓
05	✓		✓	✓	✓
06		✓	✓	✓	✓
07	✓	✓	✓	✓	✓
08	✓	✓	✓	✓	✓
09	✓	✓	✓	✓	✓
10	✓	✓	✓	✓	✓
11	✓	✓	✓	✓	✓
12	✓	✓	✓	✓	✓
3.01	○	∅		⊗	⊗
02			✓	✓	✓
03				✓	✓
04			✓	✓	✓
05			✓	✓	✓
06		✓		✓	✓
07	✓	✓	✓		
08	✓	✓	✓	✓	✓
09	✓	✓		✓	✓
4.01	✓				
02	✓	✓	✓		
03	✓	✓	✓		
04	✓	✓	✓	✓	
05	✓	✓	✓		
06	✓	✓	✓	✓	
07	✓	✓	✓	✓	
08	✓	✓	✓	✓	
09	✓	✓	✓	✓	
10	✓	✓	✓	✓	

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F.600	G.700
5.01	✓	✓	✓	✓	✓		
02	✓	✓	✓	✓	✓		
03			✓				
04	✓	✓	✓	✓	✓		
05	✓	✓	✓	✓	✓		
06	✓	✓	✓	✓	✓		
07	✓	✓	✓	✓	✓		
08			✓				
09			✓				
10			✓				
11			✓				
12			✓				
13			✓				
6.01	✓	✓	✓	✓	✓		
02	✓	✓	✓	✓	✓		
03	✓	✓	✓	✓	✓		
04	✓	✓	✓	✓	✓		
05			✓				
06	✓	✓	✓	✓	✓		
07	✓	✓	✓	✓	✓		

	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500
1.	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
2.	○	⊗	⊗	⊗	④
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○

	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700	H - .800	I - .900
3.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4.	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5.	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第48回世界体操競技選手権ドーハ大会女子審判員報告

審判委員会体操競技女子審判本部員
野田みき子

1. 派遣期間：2018年10月19日（金）～11月4日（日）

2. 開催地：カタール／ドーハ

3. 会場：**Aspire Dome**（右図）

4. 審判員：大森智子（体操競技女子審判本部長：FIG指名）

野田みき子（体操競技女子審判副本部長：帯同審判）

5. 日程：大会スケジュール

10月19日（金）出国（大森）

20日（土）現地到着（大森）、出国（野田）

21日（日）現地到着（野田） 女子技術委員・D審判会議、男子ポディウムトレーニング

22日（月）女子審判会議、審判抽選（予選、個人総合決勝）

　　男子ポディウムトレーニング

23日（火）女子ポディウムトレーニング

24日（水）女子ポディウムトレーニング

25日（木）男子予選1日目（1班～5班）

26日（金）男子予選2日目（6班～10班）※日本6班

27日（土）女子予選1日目（1班～6班）※日本2班

28日（日）女子予選2日目（7班～11班）

29日（月）男子団体決勝、審判抽選

30日（火）女子団体決勝、審判抽選

31日（水）男子個人総合決勝

11月1日（木）女子個人総合決勝

2日（金）男女種目別決勝1日目、審判抽選

3日（土）男女種目別決勝2日目、審判抽選

4日（日）出国、日本到着



6. 参加国

男女合計：77カ国（参加選手合計：557名 男子292名 女子265名）

※女子チーム参加 42カ国、個人参加 31カ国

7. 審判会議

はじめに、審判長の SACCHI Donatella 氏より、今大会は 2020 東京オリンピックに向けての非常に重要な大会であることや、最初から最後まで正確に採点をし、減点を入力する際も送信する前に必ず確認をして欲しいこと等々の内容を含め挨拶と諸注意があった。その後、地元スタッフのインフォメーションに続き、審判長および各種目のスーパーバイザーによる E スコアに関する研修となった。研修内容は、はじめに審判長より総則の中から今後新しく適用される内容の説明や現行ルールの確認があった。続いて、各種目のスーパーバイザーより、それぞれ E スコア算出にあたり重要となる減点項目の説明・確認と映像を用いての採点研修が行われた。

跳馬は各跳躍局面の種目特有な実施減点の確認、段違い平行棒は「パク宙返り、シャポシニコヴァ系の技」の実施に関する減点、「倒立、振り上げ倒立の姿勢」、「中間振動」、「足が器械やマットにあたる」、「終末技の実施が器械に大変近い」の減点の確認、平均台は「宙返りでの伸身、屈身姿勢」、「技の高さ」、「正確さ」、「調整」、「平均を保つための余分な動き」、「台に近い動き」、「ダンス系の技の実施における身体の姿勢等」の減点の確認、ゆかは平均台と同様、「ダンス系の技の実施における身体の姿勢等」と「調整」、そして「技の配分」の中から「コーナーでの振り付けの多様性に欠ける」・「アクロバット系の技で演技を終了させる」についての減点の確認をした。平均台、ゆかともにダンス系の技の実施における「身体の姿勢」については、研修に十分な時間が費やされた。映像による採点研修は、各スーパーバイザーの説明を再確認できる内容であった。研修の後、予選および個人総合決勝の審判抽選となった。団体決勝の抽選と種目別決勝前半種目（跳馬・段違い平行棒）、後半種目（平均台・ゆか）の抽選は、それぞれの競技当日の審判会議で行われた。

【審判抽選】

はじめに、すでに決定されている D 審判を除く R 審判、E 審判の抽選が実施された。審判抽選の順番は、R 審判、次に E 審判員・アシスタント・リザーブの順で抽選が行われた。R 審判については事前に指名された 8 名がすべての競技を審判することになっており、競技ごとに種目の抽選が実施された。E 審判については、D 審判、R 審判と同一国は同じ種目に入れないこと、団体決勝、種目別決勝については出場国の帶同審判が入れないことになっているため、該当国を除きながらの抽選となった。また種目別決勝については、カテゴリー III の審判を除いての抽選であった。

各国の帶同審判員は団体出場国からは最大 2 名、個人出場国からは 1 名派遣することができるが、D 審判、R 審判に指名された審判がいる国は、指名された審判を含めて最大 2 名までの派遣になる。日本は D 審判に大森が指名されていたため、野田 1 人のみの抽選であった。

今大会は非常に参加国が多く、帶同審判だけでも 73 名のエントリーがあり、予選の E 審判に入るには非常に難しい状況であった。結果日本は予選、個人総合決勝とも E 審判、アシスタントに入れなかった。また、日本は団体決勝に進出している国であることから、次に抽選の対象となる競技は種目別決勝だけとなった。日本と同様に団体決勝に出場したフランスとカナダも日本と同様に予選、個人総合決勝の抽選にもれてしまったが、この 3 カ国は後日の審判会議の際、種目別決勝に優先的に入ることができる説明があった。今回の種目別決勝の抽選は、前半種目の競技、後半種目の競技それぞれ当日の審判会議にて行われた。優先的に抽選をすることになったフランス、カナダ、日本の中から、まず自国の選手が段違い平行棒の決勝に出場していないカナダの審判を段違い平行棒の E 1 に配置し、次にフランスと日本のいずれかが跳馬もしくは段違い平行棒の E 審判に入る抽選が行われた。フランスが段違い平行棒、日本が跳馬に入ることが決定された後、跳馬と段違い平行棒の両方に出場する国を除いたカテゴリー I、II を派遣している国での抽選をし、翌日の後半種目の競技当日に、前半種目の E 審判に入った国と平均台とゆかの両方に出場する国を除いて抽選が行われた。参加国が多い場合団体決勝、種目別決勝に残る強豪国は審判をできずに終わってしまう可能性が非常に高く、今大会では団体出場国で 6 カ国 6 人が審判に入ることができないという結果であった。

【審判団】

今回の大会では FIG 技術委員は以下のように配置されていた。

審判長 : SACCHI Donatella

上級審判員 : DOWDELL Kym DAVYDOVA Elena

Supervisor : 跳馬 PERSKAIA Tatiana Borisovna

: 段違い平行棒 ANDRIANOVA Liubov

: 平均台 GRATT Johanna

: ゆか ZHOU Qiurui

◆参加審判

62 カ国 89 名 (D 審判 8 名・R 審判 8 名・各国帯同審判 73 名)

※1 カ国 2 名派遣国 : 16 カ国

D 審判団

VT	D1 : NORDLI Anne Torill (NOR)	D2 : CABRERA DAVILA Yazaira (PUR)
UB	D1 : LARIO Helena Beatriz (ARG)	D2 : SEILE Nadezda (LAT)
BB	D1 : STARE CRNJAC Vesna (SLO)	D2 : 大森智子 (日本)
FX	D1 : van DOOREN Marleen (BEL)	D2 : COCUZZA Maria (ITA)

R 審判団

	予選	団体 決勝	個人総合 決勝	種目別 決勝
CHUO Tsui-Hua (TPE)	BB	UB	UB	BB
FRAUENKNECHT-BERGUNDTHAL Christina (SUI)	UB	FX	BB	VT
HADÉ Trisha Maree (AUS)	BB	BB	FX	VT
KAILOVA Petra (CZE)	VT	VT	UB	UB
KLAESBERG Sabrina (GER)	UB	BB	VT	FX
LEDERER Dunja (CRO)	FX	UB	FX	BB
SHAI Orna (ISR)	FX	VT	BB	FX
VASBINDER Jitske (NED)	VT	FX	VT	UB

◆抽選結果

野田みき子 種目別決勝 跳馬 E5

6. 結果

◆予選結果

団体 (5-4-3)

()内の数字は予選順位

順位	国名	跳馬	段違い平行棒	平均台	ゆか	合計
1	USA	45.166(1)	43.465(1)	42.732(1)	43.066(1)	174.429
2	RUS	42.332(6)	42.566(4)	39.766(4)	40.833(2)	165.497
3	CHN	41.999(7)	43.099(2)	41.099(2)	38.999(10)	165.196
4	CAN	42.933(3)	40.499(9)	40.832(3)	39.633(5)	163.897
5	BRA	43.532(2)	40.832(7)	37.932(12)	40.233(3)	162.529
6	日本	42.399(5)	41.016(6)	39.699(6)	39.066(8)	162.180
7	FRA	41.632(8)	40.732(8)	39.566(7)	39.699(4)	161.629
8	GER	41.166(12)	42.690(3)	39.216(8)	37.999(14)	161.071

個人総合

※4種目実施者を記載

畠田 瞳	52.932	16位
梶田 凪	51.149	34位
村上茉愛	55.632	3位 予選通過
寺本明日香	53.466	14位 予選通過

◆決勝結果

団体 (5-3-3)

()内の数字は決勝順位

順位	国名	跳馬	段違い平行棒	平均台	ゆか	合計
1	USA	44.666(1)	43.799(1)	41.799(1)	41.365(1)	171.629
2	RUS	41.133(7)	42.666(2)	39.932(2)	39.132(5)	162.863
3	CHN	42.332(4)	41.966(4)	38.999(5)	39.099(6)	162.396
4	CAN	43.782(2)	39.498(7)	38.899(6)	39.465(4)	161.644
5	FRA	41.866(5)	41.465(5)	39.898(3)	38.065(8)	161.294
6	日本	41.333(6)	39.832(6)	39.165(4)	39.932(3)	160.262
7	BRA	43.666(3)	37.665(8)	38.366(7)	40.133(2)	159.830
8	GER	40.765(8)	42.232(3)	38.032(8)	38.399(7)	159.428

個人総合決勝

順位	選手名	国名	跳馬	段違い平行棒	平均台	ゆか	合計
1	BILES Simone	USA	14.533	14.725	13.233	15.000	57.491
2	村上 茉愛	日本	14.566	13.566	13.666	14.000	55.798
3	HURD Morgan	USA	14.600	14.333	12.933	14.866	55.732
10	寺本明日香	日本	14.633	13.733	12.900	13.033	54.299

種目別決勝

ゆか 村上茉愛 13.866 3位 銅メダル

所 感

各種目

【跳馬】

日本はトレーニングホールでの練習において、跳躍板の跳ね具合と上手く合わないせいか普段通りの跳躍ができず、非常に苦戦をしていた様子であった。競技会場のように男女共通で使用している跳躍板は使用頻度も多くスプリングの硬さは幾分柔らかくなつて合わせやすいということを聞いていたが、女子だけが使用するトレーニングホールの跳躍板は、非常に使いづらいとのことであった。

予選では、日本選手は大きなミスはなかったが、「伸身姿勢が保てない」、また着地時に頭が下がる、大きなステップ等「着地の欠点」に対する減点が生じていたと思う。着地の姿勢や着地が乱れることの減点は厳密にされるため、やはり安定した着地は必要であると言える。

団体決勝では、大過失を伴う跳躍もあり、やはり世界選手権の予選、決勝すべての競技において、難易度の高い技を安定して演技できる競技力を日本はつけていかなければならぬと感じた。D スコアの平均を見ると（下記表 2 参照）、日本は団体 2 位、3 位のロシア、中国と並んでいるが、団体 7 位のブラジルには D スコアに関しては完全に負けている現状である。さらにアメリカ、カナダ、ブラジルは 3 人とも D スコア 5.4 以上の跳躍を実施できる選手をそろえており、これらの国と対等に戦うためには、更に日本は D スコアを上げなければならないことがわかる。今回団体決勝での日本は、失敗があったためひねり不足と見られる跳躍があり、本来より 0.4 低い D スコアの跳躍技で承認されている。

E スコアだけの比較では、予選出場 42 チーム中 12 位、団体決勝出場 8 チーム中 7 位の位置づけであった。団体決勝では、着地での大過失があったことに加え、膝の緩みや伸身姿勢が保てない等の欠点による減点が嵩んだ結果だと思われる。今回、予選の競技で 9 点以上のスコアを獲得した選手は全体の 7%（1 本目の跳躍/195 名中 13 名）にすぎなかった。高い E スコアを得るためににはもちろん大過失を伴わないことは絶対条件であるが、予選において 9 点以上のスコアを獲得した跳躍を見ても、やはり跳躍の大きさ（高さ、距離）と着地姿勢をとるまで伸身姿勢を保てるかということ、そして安定した着地、この 3 点が非常に重要であると感じた。日本選手は、跳躍台からの突き上がりも見え、高さのある跳躍ではあるが、宙返りの軌跡が小さく見え、小ぢんまりとした印象を受ける。高さと距離を伴うダイナミックな跳躍という印象を受けないため、高得点に結びつかなかつたのではないかと思う。また、伸身姿勢を保てずに着地前に腰が曲がってしまうことで審判に減点するチャンスを与えてしまっている。高い E スコアを狙うためには、やはり難易度の高い跳躍技をいかにダイナミックに跳ぶことができるかどうか、そして着地の減点を極力抑えられる安定した着地ができるかが鍵ではないかと考える。他国のポディウムトレーニングを見た際、アメリカの跳馬はもちろん群を抜いていたが、ブラジルがかなりの勢いで強化てきていている事を目の当たりにした。ウォーミングアップでの跳躍でも、ユルチェンコ入りからの突き上がりが、著しく高い印象を受けた。日本は最終的に団体総合ではブラジルに勝つことができたが、ブラジルは日本選手に不足している「着手からの突き上がりの大きさ」と「跳躍全体から受けるダイナミックさ」を備えている国であり、今後日本にとって脅威となる存在である。これから日本の日本は、「美しい体線で高い D スコアの技を跳ぶことができる」だけでは、強豪国と対等に戦えない。「減点のない高さと距離の追求」「すべての局面において美しい体線での実施」「安定した着地のために必要とされる技能、技術の習得」が必要だと感じた。

予選における各国の跳馬の D スコアの平均と E スコアの平均 (表 1)

団体予選順位	国名	D スコアの平均	E スコアの平均
1 (1)	USA	5.733 (1)	9.322 (1)
5 (2)	BRA	5.400 (3)	9.111 (2)
4 (3)	CAN	5.600 (2)	8.778 (16)
9 (4)	GBR	5.333 (5)	8.889 (8)
6 (5)	日本	5.400 (3)	8.800 (12)
2 (6)	RUS	5.267 (6)	8.844 (10)
3 (7)	CHN	5.267 (6)	8.800 (12)
7 (8)	FRA	4.867 (12)	9.011 (3)

* () 予選 42 チーム中の跳馬の順位

団体決勝における各国の跳馬の D スコアの平均と E スコアの平均 (表 2)

団体決勝順位	国名	D スコアの平均	E スコアの平均
1 (1)	USA	5.600 (1)	9.288 (1)
4 (2)	CAN	5.600 (1)	8.994 (4)
7 (3)	BRA	5.400 (3)	9.155 (2)
3 (4)	CHN	5.266 (4)	8.844 (5)
5 (5)	FRA	4.866 (7)	9.088 (3)
6 (6)	日本	5.266 (4)	8.611 (7)
2 (7)	RUS	5.266 (4)	8.544 (8)
8 (8)	GER	4.866 (7)	8.821 (6)

* () 決勝での跳馬の順位

種目別決勝上位選手の演技

◆跳馬

BILES Simone (USA) 15.366

- ①ロンダート後ろとび1/2ひねり～前方伸身宙返り2 1/2ひねり (D6.0 E9.266)
- ②ロンダート後転とび～後方伸身宙返り2 1/2ひねり (D5.8 E9.666)

OLSEN Shallon (CAN) 14.516

- ①ロンダート後ろとび1/2ひねり～前方伸身宙返り1 1/2ひねり (D6.0 E8.600)
- ②ロンダート後転とび～後方伸身宙返り2回ひねり (D5.4 E9.033)

MORENO Alexa (MEX) 14.508

- ①前転とび～前方伸身宙返り1 1/2ひねり (D5.8 E8.800)
- ②伸身ツカハラ2回ひねり (D5.6 E8.916) ライン-0.10

【段違い平行棒】

段違い平行棒は、ここ数年の課題となっている種目であり、高い難度の技の実施、複数の組み合わせへの取り組みが非常に重要なことは、今回の世界選手権においても再確認をさせられた。

今回の日本の代表選手の D スコアは予選で 5.7 が 2 人、5.5 が 2 人、団体決勝では 5.7、5.5、5.4 であったが、団体 1 位のアメリカ、2 位のロシアは D スコア 5.8 以上の選手が 3 人、それ以外の団体決勝出

場国は D スコア 5.8 以上が 2 人いる。また、E スコアもアメリカは 8.6 以上が 2 人、ロシアは 8.7 が 1 人と 8 点前半が 2 人いることに対し、日本は E スコアの平均が 7 点台であり、日本と他国との段違い平行棒のスコアの差は大きい。

演技構成をみると、全体的に E 難度以上の高棒での背面とび越しの技が増えている印象であった。今大会種目別決勝で優勝したベルギーの DERWAEL Nina 選手は、D スコアを 6.3 から 6.5 へと昨年よりも 0.2 上げる演技構成で臨むなど、実施できる高難度の技が非常に豊富であることを実感した。団体決勝出場国、種目別決勝出場者の多くは 0.20 の組み合わせ点を複数獲得できる構成であることや、空中局面を伴う技については非常に高さがある実施であり、迫力を感じた。また、一つの演技の中に棒間移動が何度もあり低棒から高棒への移動の際も、採点規則集に掲載されているシャポシニコヴァ系の技をすべて使用しているのではないかと思わせるほど技の数は豊富であった印象である。

予選における日本チームの演技は、予定していた通りの D スコアを獲得することはできたが、ひねりを伴う技の完了角度が不正確、同一棒を再び握る宙返りが棒に近い実施、宙返りの後、棒を握ったときに膝が曲がる等の減点があり、E スコアは 8.00 前後となった。決勝においては、け上がり、振り上げをやり直すなど普段国内の競技会ではあまり見られない失敗をしてしまい、E スコアは伸びなかった。全体的に段違い平行棒は、個々の技に対して細かく減点をされている印象で、け上がりでの身体の伸ばしが不十分な実施や、後ろ振り上げの姿勢、ひねり完了時の減点などより厳密に減点されているように感じた。

団体決勝出場国の D スコアを比較してみると、1 人あたり日本は上位 3 カ国より約 0.3~0.5 低い。この差を縮めるためには、実施する技の難易度を上げ、組み合わせ点も複数、獲得しなければならない。現在の日本選手は、組み合わせ点が全くないわけではないが、上位選手と比較すると、空中局面を伴う技の E 難度、F 難度の実施が少ないと、組み合わせが単発でしかないと高い D スコアに結びつかない。技の難度を 1 つ上げるということは容易なことでなく、技の習得に相当な時間を要することだと思うが、果敢に挑戦をしてもらいたいと思う。また、技を単独で実施するだけでは技と技の間に、け上がりや振り上げ倒立、車輪などを実施することとなり、その分減点の機会が増えることに繋がる。また、日本の多くの選手は高い難度の技や組み合わせ点の獲得を狙うためにひねりを伴う技を複数取り入れる傾向にあるが、ひねりを伴う技を倒立局面で実施できなければ減点が大きくなるため、空中局面を伴う技を複数取り入れることには非挑んでもらいたいと思う。そして組み合わせ点を獲得できる構成と減点の機会を減らす構成を目指して欲しい。

今回の予選を見ると、日本よりも下位に位置する予選 9 位のイギリスは、D+E (どちらも空中局面を伴う) や、低棒から高棒へ D 以上の空中局面を伴う技で移動し、そのまま高棒でトカチエフ等の背面とび越しを実施し、0.20 の組合せ点が獲得できる演技を予選に出場した選手 4 人ともが実施しており、予選時のチーム得点に関わる D スコアの平均は 6.1、日本の予選時の平均は 5.633 と日本の方が明らかに低いことがわかる。イギリスは、膝の緩みや、脚の開き、つま先の緩み等が見られ実施減点が嵩み、チーム得点に関わる E スコアの平均は 7.788、日本の予選時の平均は 8.038 で姿勢欠点の少なかった日本の方がやはり評価をされているが、D スコアの差が大きいため段違い平行棒のチーム得点については、0.65 イギリスが上回った結果に至った。イギリスは今回姿勢欠点や細かな過失が響き E スコアが伸びず、団体で予選を通過できなかったが、過失を抑えれば十分上位に食い込む力を持っている。

日本は今後も、背面とび越しや棒間を移動する技等、多様な空中局面を伴う技を選択していくことも目を向け、引き続き高い D スコアの演技構成を目指すと同時にその技の完成度も高めていくことを忘れてはならないと思う。

予選における各国の段違い平行棒の D スコアの平均と E スコアの平均（表 3）

団体予選順位	国名	D スコアの平均	E スコアの平均
1 (1)	USA	6.000 (3)	8.533 (1)
3 (2)	CHN	5.967 (5)	8.400 (2)
8 (3)	GER	6.033 (2)	8.197 (3)
2 (4)	RUS	6.000 (3)	8.199 (4)
9 (5)	GBR	6.200 (1)	7.789 (12)
6 (6)	日本	5.633 (8)	8.055 (5)
5 (7)	BRA	5.767 (6)	7.844 (11)
7 (8)	FRA	5.633 (8)	7.955 (7)

* () 予選 42 チーム中の段違い平行棒の順位

団体決勝における各国の段違い平行棒の D スコアの平均と E スコアの平均（表 4）

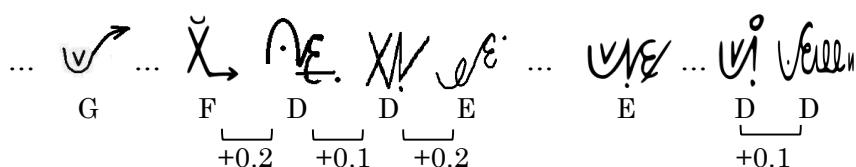
団体決勝順位	国名	D スコアの平均	E スコアの平均
1 (1)	USA	6.066 (1)	8.533 (1)
2 (2)	RUS	5.900 (3)	8.322 (2)
8 (3)	GER	6.000 (2)	8.077 (5)
3 (4)	CHN	5.833 (4)	8.155 (3)
5 (5)	FRA	5.733 (5)	8.088 (4)
6 (6)	日本	5.533 (7)	7.744 (6)
4 (7)	CAN	5.500 (8)	7.666 (7)
7 (8)	BRA	5.633 (6)	6.921 (8)

* () 決勝での段違い平行棒の順位

【種目別決勝上位選手の演技構成】

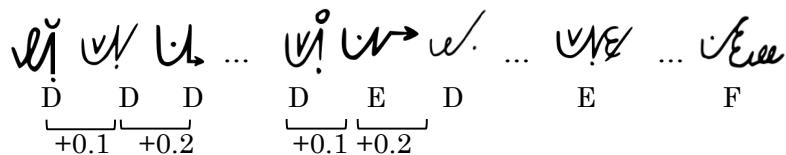
◆段違い平行棒

DERWAELE Nina (BEL) 15.200 (D6.5 E8.700) 組み合わせ点合計 0.6



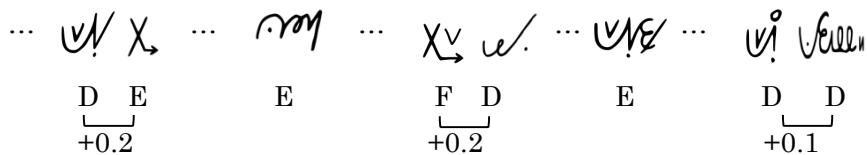
後方屈身足裏支持回転～伸身背面とび越し高棒懸垂 (G) 、後方開脚浮腰回転開脚背面とび越し1/2ひねり～後ろ振り、棒間でとび1/2ひねり下移動懸垂～シュタルダー背面とび出し上移動高棒懸垂～パク宙返り1回ひねり (F+D+D+E) 、後方屈身足裏支持回転倒立背面とび出し1/2ひねり (E) 、後方屈身足裏支持回転倒立1回ひねり～後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり下り (D+D)

BILES Simone (USA) 14.700 (D6.2 E8.500) 組み合わせ点合計 0.6



前方浮支持回転倒立1/2ひねり～後方屈身足裏支持回転倒立背面とび出し上移動高棒懸垂～トウカチエフ (D+D+D) 、後方屈身足裏支持回転倒立1回ひねり～屈身トウカチエフ～パク宙返り (D+E+D) 、後方屈身足裏支持回転倒立背面とび出し1/2ひねり (E) 、後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり下り (F)

SEITZ Elisabeth (GER) 14.600 (D6.2 E8.400) 組み合わせ点合計 0.5



後方屈身足裏支持回転倒立背面とび出し上移動高棒懸垂～後方開脚浮腰回転開脚背面とび越し (D+E) 、屈身イエーガー宙返り (E) 、後方開脚浮腰回転屈身背面とび越し～パク宙返り (F+D) 、後方屈身足裏支持回転倒立背面とび出し1/2ひねり上移動高棒懸垂 (E) 、後方屈身足裏支持回転倒立1回ひねり～後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり下り (D+D)

【平均台】

平均台は、どの国もダンス系の技の確実な実施のために練習を入念にしてきている印象で、不必要な踏み出しどとなる調整をなくす等、演技構成を工夫してきたことがうかがえた。しかし、競技本番となると技の実施後にバランスを崩し余分な動作をしたり、台を掴んだり、落下するといったことが上位国にも度々起こっていた。そのようなミスが続出する国が多い中、日本は予選、決勝を通じ落下は1回、大きくバランスを崩す事が1回あったものの、それ以外大きなミスはなく減点を最小限に抑えることができ、団体決勝でのEスコアは、決勝出場8カ国のうち3番目、最終スコアは4番目の位置づけで良い評価を得たと言える。(下記表6参照)しかし、Dスコアは、7番目と低く(下記表6参照)団体1位のアメリカとは1人あたり0.50以上の差が生じている。今回、日本代表選手は、本来予定していた演技構成から難度を落とした構成で競技会に挑んだが、実際にはひねりを伴う技のひねりが不足したことや予定をしていた組み合わせ点が獲得できなかつたことで、更に低いDスコアとなってしまっている。減点は最小限に抑えたいが、今後は消極的な演技構成ではなく、高い難度の技の実施はもちろんのこと、組み合わせ点のほか、シリーズボーナスも獲得できる演技構成を確実に実施できる力を養ってもらいたい。また、技と動きの間のつなぎも滑らかに途切れることなく流れるように練習を積み重ねてほしい。

予選における各国の平均台の D スコアの平均と E スコアの平均 (表 5)

団体予選順位	国名	D スコアの平均	E スコアの平均
1 (1)	USA	6.133 (1)	8.111 (2)
3 (2)	CHN	6.000 (2)	7.766 (8)
4 (3)	CAN	5.633 (4)	7.977 (5)
2 (4)	RUS	5.467 (6)	7.833 (7)
10 (5)	NED	4.867 (26)	8.388 (1)
6 (6)	日本	5.233 (10)	8.033 (4)
7 (7)	FRA	5.767 (3)	7.589 (12)
8 (8)	GER	5.000 (17)	8.072 (3)

* () 予選 42 チーム中の平均台の順位

団体決勝における各国の平均台の D スコアの平均と E スコアの平均 (表 6)

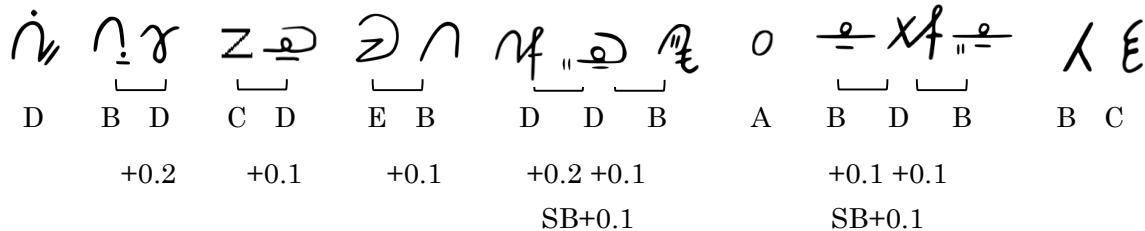
団体決勝順位	国名	D スコアの平均	E スコアの平均
1 (1)	USA	5.866 (1)	8.066 (1)
2 (2)	RUS	5.400 (6)	7.944 (2)
5 (3)	FRA	5.766 (3)	7.532 (5)
6 (4)	日本	5.300 (7)	7.755 (3)
3 (5)	CHN	5.833 (2)	7.166 (8)
4 (6)	CAN	5.466 (4)	7.499 (6)
7 (7)	BRA	5.433 (5)	7.355 (7)
8 (8)	GER	5.000 (8)	7.677 (4)

* () 決勝での平均台の順位

【種目別決勝上位選手の演技構成】

◆平均台

LIU Tingting (CHN) 15.200 (D6.3 E8.233) 組み合わせ点合計 1.1



台に背を向けて後転とび、胸倒立から正面支持(D)、前転とび～前方かかえ込み宙返り(B+D)、前へ脚交差した前後開脚とび～片足踏み切り前後開脚とびから輪(C+D)、前へ脚交差した前後開脚とびから輪～後転とび(E+B)、前方開脚伸身宙返り～両足踏み切り前後開脚とびから輪～後転とびから台をまたいだ座(D+D+B)、片足立ち1回ターン、片足踏み切り前後開脚とび～片足踏み切り側方開脚伸身宙返り～両足踏み切り前後開脚とび(B+D+B)、ロンドート～後方伸身宙返り2回ひねり下り(C)

D E E D C C D D B B C A A B E
 +0.2 +0.1 +0.1
 SB+0.1 SB+0.1

台に背を向けて後転とび、胸倒立から正面支持 (D) 、しゃがみ立ち3回ターン (E) 、前へ脚交差した前後開脚とびから輪 (E) 、片足踏み切り側方開脚伸身宙返り～後方開脚伸身宙返り連続 (D+C+C) 、前へ脚交差した前後開脚とび1/2ひねり (D) 、片足踏み切り前方開脚伸身宙返り～両足踏み切り前後開脚とび～後転とび (D+B+B) 、脚交差した前後開脚とび (C) 、ウルフとび～シソンヌ、ロンダート、後方屈身2回宙返り下り (E)

E A A E B C C C D C E D B B B G
 +0.1 +0.1 +0.2
 SB+0.1 SB+0.1

しゃがみ立ち3回ターン (E) 、シソンヌ～ウルフとび、両足踏み切り手支持のないロンダート (E) 、後転とび～後方開脚伸身宙返り連続 (B+C+C) 、前へ脚交差した前後開脚とび (C) 、前へ脚交差した前後開脚とび1/2ひねり (D) 、後方屈身宙返り (C) 、前方屈身宙返り (E) 、片足踏み切り前方開脚伸身宙返り～両足踏み切り前後開脚とび (D+B) 、後転とび～後転とび両足着台～後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり下り (B+B+G)

【ゆ か】

ポディウムトレーニングでの日本選手は、アクロバット系の技の着地の乱れが目立っていた。大過失は1回であったが、着地が上手く止められず余分なステップとなる実施や後方系の技では前かがみとなる着地が多く見られた。また、ダンス系の技が予定されている難度より低い難度に承認されるような実施もあり、減点の機会も多く伺え、やや苦戦をしていたように思う。予選の競技では、器具が合わなかつたことも影響していると思うが、アクロバット系の技、ダンス系の技の着地の乱れが非常に多く、大きなステップや着地姿勢が低くなってしまう等の減点が嵩んでしまった。また、境界線からの踏み出しも減点されているため得点は伸びず、予選でのゆかのチーム得点は42カ国中8位、Eスコアだけの順位は15位であった。ポディウムトレーニングの際、スーパーバイザーからターンや輪とびを承認するにあたり非常に迷う実施もあるということを言われていたため繰り返し練習をしていたが、団体決勝では残念ながら正確な実施ができず予定しているDスコアを獲得することができなかった。しかし、3選手とも、アクロバット系の技の着地を丁寧におさめることができ、予選での失敗を見事に克服することができたのではないかと思う。

団体決勝での日本の平均スコアは、Dスコアが3番目、Eスコアが5番目、チーム得点では3番目の位置づけであった。(下記表8参照) Dスコア、Eスコアとともに1位のアメリカは、BILES選手のDスコアが6.6と飛びぬけて高く、他の2選手は5.4、5.5であった。また、団体2位のロシアのDスコアは、

5.7、5.9、4.9と2選手はアメリカより高い結果ではあるが、Eスコアが伸びず、チーム得点は日本よりも下位に位置している。技の承認に対しては十分な実施であっても、実施減点が嵩めば最終得点に影響する。ゆかの場合、アクロバット系の着地の減点や平均台と同様ダンス系の技の身体の姿勢に対する減点が大きければ高得点は望めない。

今大会日本ゆかのチーム得点は団体決勝では3番目ではあったが、これまで通り高い難度の技の実施はもちろんのこと、組み合わせ点を獲得できる演技構成を確実に実施できる力を養っていくつもみたい。特に今回力をつけてきたフランスやブラジルと比較すると技の高さ不足を感じたため、宙返りだけではなく、ダンス系跳躍技においても、もう少し高さが出せる力が欲しい。高さのある技を実施することにより着地をするまでに余裕が生まれ、ひねり不足や着地での欠点の解消に繋がり、ダイナミックさも更に向上するのではないかと考える。是非、それが実現できるようトレーニングを積んでほしい。

予選における各国のゆかのDスコアの平均とEスコアの平均（表7）

団体予選順位	国名	Dスコアの平均	Eスコアの平均
1 (1)	USA	5.900 (1)	8.455 (1)
2 (2)	RUS	5.567 (2)	8.166 (3)
5 (3)	BRA	5.300 (4)	8.211 (2)
7 (4)	FRA	5.133 (7)	8.133 (4)
4 (5)	CAN	5.200 (5)	8.078 (6)
12 (6)	ITA	5.167 (6)	8.077 (7)
11 (7)	BEL	5.000 (12)	8.088 (5)
6 (8)	日本	5.400 (3)	7.789 (15)
10 (8)	NED	5.100 (9)	8.055 (8)

* () 予選42チーム中のゆかの順位

団体決勝における各国の平均台のDスコアの平均とEスコアの平均（表8）

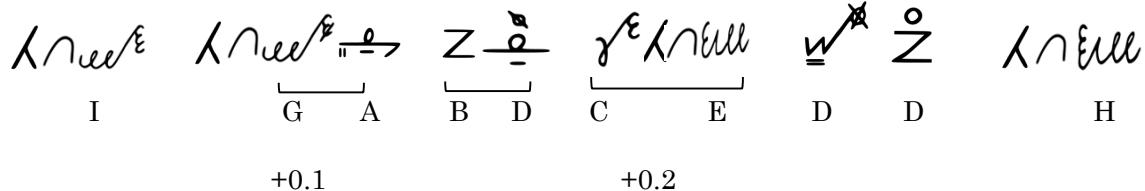
団体決勝順位	国名	Dスコアの平均	Eスコアの平均
1 (1)	USA	5.833 (1)	8.088 (1)
2 (5)	RUS	5.500 (2)	7.644 (7)
3 (6)	CHN	5.000 (7)	8.033 (3)
4 (4)	CAN	5.133 (5)	8.021 (4)
5 (8)	FRA	5.066 (6)	7.621 (8)
6 (3)	日本	5.300 (3)	8.010 (5)
7 (2)	BRA	5.300 (3)	8.077 (2)
8 (7)	GER	4.833 (8)	7.966 (6)

* () 決勝でのゆかの順位

【種目別決勝上位選手の演技構成】

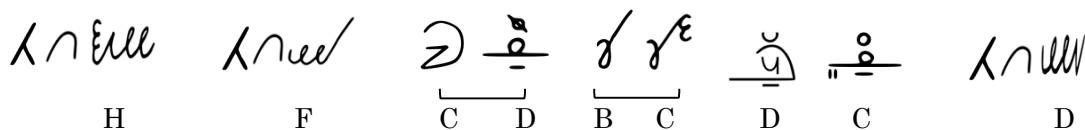
◆ゆか

BILES Simone (USA) 14.933 (D6.7 E8.533) ライン-0.30 組み合せ点合計 0.30



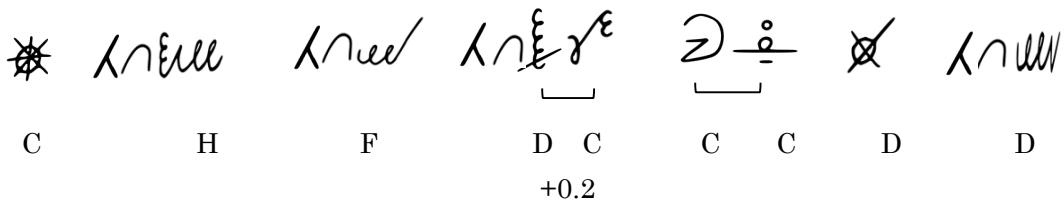
後方伸身2回宙返り2回ひねり (I) 、後方伸身2回宙返り1/2ひねり～鹿とび (G+A) 、前へ脚を交差した前後開脚とび～前後開脚とび11/2ひねり (D) 、前方伸身宙返り1回ひねり (C) ～ロンダート、後転とび、後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり (C+E) 、しゃがみ立ち2回ターン (D) 、前へ脚を交差した前後開脚とび1回ひねり (D) 、後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり (H)

HURD Morgan (USA) 13.933 (D5.5 E8.433) 組み合せ点 なし



後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり (H) 、後方伸身2回宙返り (F) 、前へ脚交差した前後開脚とびから輪 (C) ～前後開脚とび11/2ひねり (D) 、前方伸身宙返り～前方伸身宙返り1回ひねり (B+C) 、カデットから輪1/2ひねり (D) 、両足踏み切り前後開脚とび1回ひねり (C) 、後方屈身2回宙返り (D)

村上 茉愛 (日本) 13.866 (D5.7 E8.166) 組み合せ点合計 0.2



片足立ち3回ターン (C) 、後方かかえ込み3回宙返り2回ひねり (H) 、後方伸身2回宙返り (F) 、後方伸身宙返り2回ひねり～前方伸身宙返り1回ひねり (D+C) 、前へ脚交差した前後開脚とびから輪 (C) ～前後開脚とび1回ひねり (C) 、前へ上げた浮脚の踵を水平に保つ片足立ち2回ターン (D) 、後方屈身2回宙返り (D)

【全体を通して】

今大会は、2020 東京オリンピックへの出場権を獲得するための、非常に重要な大会として位置づけられていた。従来の方法からオリンピックへの出場国の選抜方式が変更され、このドーハ世界選手権において団体決勝上位3カ国には、オリンピックの出場権が与えられるものであった。また、プレオリンピックの開催がなくなり、2019年の世界選手権で今大会24位までの成績を収めた国が、残りの9カ国のみ

出場権獲得を目指すという選抜方式となった。

今回、日本は団体決勝で3位に入るという最大の目標を掲げられていたが、目標達成には至らず42カ国中第6位という結果であった。村上茉愛選手が個人総合決勝で銀メダル、種目別決勝のゆかで銅メダルを獲得し、また寺本明日香選手が個人総合で10位に入る等、世界のトップレベルと対等に戦える力を持ち、素晴らしい成績を収めることができたことは非常に喜ばしいことである。しかし、近年の日本チームはオリンピックや世界選手権の団体で予選通過を可能とする力につけてきているものの、今回の結果を見た上では、団体でのメダルを獲得するにはまだ力が及ばなかったと言わざるを得ない。

現在の日本は、姿勢欠点も少なく、技の実施も丁寧で大きな減点に直接結びついてはいないが、ダンス系、アクロバット系とともにひねりを伴う技が正確に実施できなかっことにより予定しているDスコアを獲得できず、さらに「正確さ」の減点が発生してしまったことがEスコアにも影響を及ぼしていると思われる。また、アメリカ、ロシアや今回力をつけてきているブラジル、フランスなどの国と比べると、技の高さが十分ではないため、技の高さの減点が発生してしまう。それに伴い着地姿勢が低くなってしまったり、安定した着地をとる事ができなくなったりすることで、着地に関わる減点が大きくなり、高いEスコアに繋がらず、結果最終スコアに影響していると考える。

次への課題もまだまだあるが、今大会、日本代表選手たちはそれぞれ力を発揮していたと思う。しかし、今年の予選の結果を見ても、上位5位から9位までの5カ国(BRA,JPN,FRA,GER,GBR)の得点は1.50の間にひしめき合い、大過失1つでも順位がすぐに入れ替わってしまう状態であり、今年予選を通過していても安心していられる状況にはない。来年の世界選手権で予選を通過し、上位に食い込むためには、予選、決勝すべての競技において予定しているDスコアを確実に獲得できるような安定した演技を実施することと僅かな減点もされない姿勢欠点のない正確な実施が必要となる。

この大会を通じて、どの種目も高い難度の技を減点されることなく正確に実施しなければならないこと、跳馬を除く種目については、組み合わせ点を獲得できる演技構成を確実に実施しなければならないことを再認識したが、僅かな減点を減らすためにも基本となる技の練習を疎かにすることなく、また長期間の大会でもすべての競技においてベストの力が発揮できるよう日々の体づくりにも励んでいただきたい。東京オリンピックまでのあと約1年半を実りのある時間にすることはもちろんのこと、2020東京オリンピックだけではなく、2024パリオリンピックに向けてジュニア年齢の選手も長期的な計画のもと強化を進めていただきたいと感じた。

以上

付録

【タイブレークの基準について】

* この規則は、FIG 競技規則によるオリンピック、世界選手権等 FIG 主催の競技会に向けた規則です。国内の競技会においては、各競技会の主催団体によって、この規則を準用または参考にし設定をしてください。

競技規則 FIG Technical Regulations 2019 (抜粋)

第2章 体操競技に関する特別規定

第4条 4 タイブレーク ルール

第4条 4.1 予選

すべての決勝への資格取得：

同点の場合、どの順位においても、以下の通りの基準で順位を決定させる：

第4条 4.1.1 個人総合決勝のための予選

同点の場合、個人総合決勝の予選のどの順位においても資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は得点の高い5種目の合計、女子は得点の高い3種目の合計の得点が高い選手が上位となる。
 2. もし、それでも同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる。
 3. もし、それでも同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる。
- もし、それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第4条 4.1.2 種目別決勝のための予選

同点の場合、どの種目、どの順位においても、跳馬を除き、種目別決勝のための資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

1. Eスコアが高い選手が上位となる
 2. Dスコアが高い選手が上位となる
- もし、それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

跳馬の種目別決勝のための予選における得点が同順位であった場合、どの順位においても資格取得に向けてのランキングは以下の基準で決定される：

1. 2本の跳躍のスコアの合計点が高い選手が上位となる
 2. 2本の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる
 3. 2本の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる
- もし、それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第4条 4.1.3 団体決勝のための予選

同点の場合、団体総合決勝の予選のどの順位においても資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は各種目のチーム得点の高い5種目の合計、女子はチーム得点の高い3種目の合計の得点が高いチームが上位となる。

もし、それでも同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。

第4条 4.2 決勝

第4条 4.2.1 個人総合決勝

同点の場合、個人総合決勝のどの順位においても、ランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は得点の高い5種目の合計、女子は得点の高い3種目の合計の得点が高い選手が上位となる。

2. もし、それでも同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる。

3. もし、それでも同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる。

もし、それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第4条 4.2.2 種目別決勝

最終得点が同順位であった場合、すべての種目のどの順位においても、跳馬を除き、ランキングは以下の基準で決定される：

1. Eスコアが高い選手が上位となる
2. Dスコアが高い選手が上位となる

もし、それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

跳馬 種目別決勝

種目別決勝における最終得点が同順位であった場合、どの順位においてもランキングは以下の基準で決定される：

1. 2本の跳躍のスコアの合計点が高い選手が上位となる
2. 2本の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる
3. 2本の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる

もし、それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第4条 4.2.3 団体決勝

同点の場合、団体総合決勝のどの順位においても、ランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は各種目のチーム得点の高い5種目の合計、女子はチーム得点の高い3種目の合計の得点が高いチームが上位となる。

もし、それでも同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。

【マークをつける位置の基準について】

採点規則 2.3.2 競技の服装

F) 現行の FIG 規定に従い、自国のマークまたはエンブレムをレオタード／ユニタードにつけなければならない。

2017–2020 FIG 広告規定および競技服装 拠粹

第 6 章 国のマーク

マークの表示は以下のとおりに付ける：

レオタード／ユニタード：美観を損なわない場所ならばどこに付けてもよい。

チームの場合、すべての選手のマークは同一でなければならない。